

SNW対話イン九州大学 2016 事後アンケート結果 (平成 28 年 12 月 7 日開催)

纏め：廣 陽二

1. アンケート回答者 14 名

(内訳)

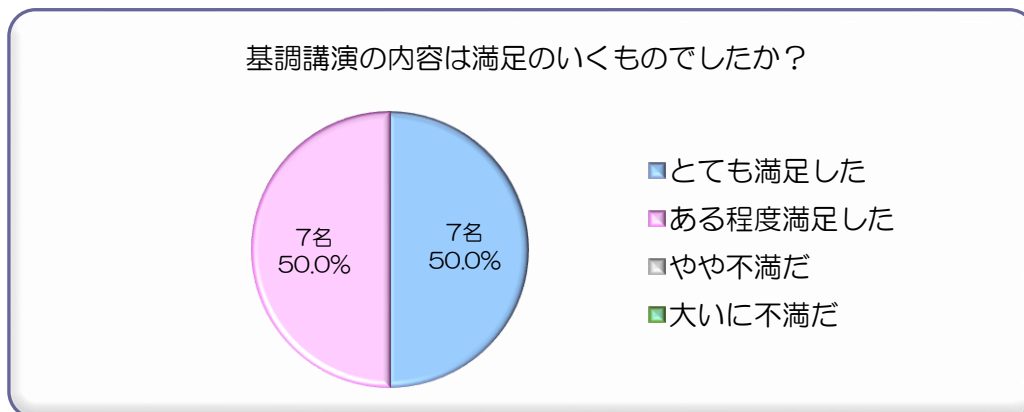
・工学部 エネルギー科学科3年	1名
・工学部 エネルギー科学科4年	5名
・大学院工学府 エネルギー量子工学M1	3名
・大学院工学府 エネルギー量子工学M2	5名

2. 対話会について

(1) 基調講演の内容は満足のいくものでしたか？その理由は？

とても満足した	7名 (50.0%)
ある程度満足した	7名 (50.0%)
やや不満だ	0名 (0.0%)
大いに不満だ	0名 (0.0%)

「とても満足した」と「ある程度満足した」が、それぞれ半数の回答であった。



<理由>

- ・ 福島原発事故や、日本の原発の現状を確認することが出来たから。
 - ・ 原子力のメリットやデメリット、事故対策や教訓等、幅広く講演していただいたから。
 - ・ 今まで知らなかった知識を得ることが出来たから。
 - ・ 経験・知識のある方々と対話することが出来た。
 - ・ 福島原発事故や新規制基準について復習することができ、何が再稼働の妨げになっているか整理出来たため。
 - ・ 大まかな情報だけでなく細かな内情等、なかなか知り得ないような話を聞くことができたので。
 - ・ 専門性の高い話題について、長い時間をかけて議論出来たから。
 - ・ 時間の問題で省略の部分が多かったが、分かりやすく良かった。
 - ・ 新規制基準については詳しく知らなかったので、聞くことができてよかったと思う。

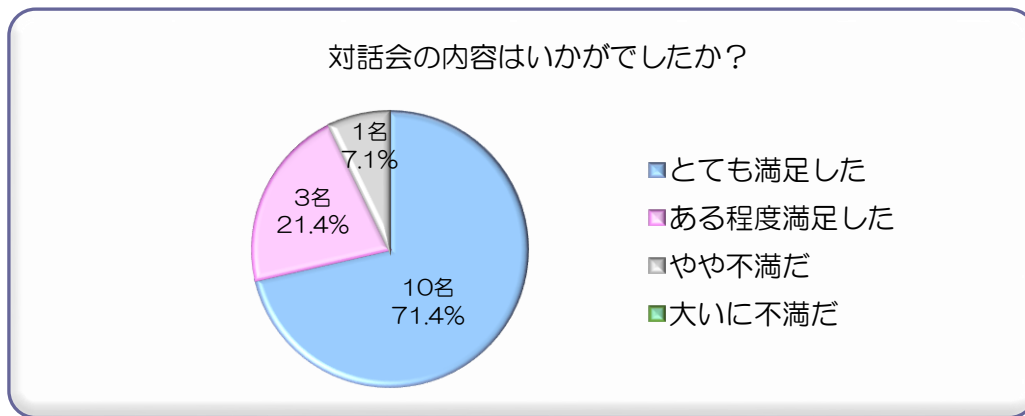
- ・ 原子力の現状が、分かりやすくまとめられ良かったと思う。ただ、スライドの中に数値が**つぶ**れてよく分からないグラフがあったので改正してほしい。

(2) 対話会の内容はいかがでしたか？その理由は？

とても満足した	10名 (71.4%)
ある程度満足した	3名 (21.4%)
やや不満だ	1名 (7.1%)
大いに不満だ	0名 (0.0%)

「とても満足した」との回答が約7割、「ある程度満足した」との回答が約2割、1名だけ「やや不満だ」と回答している。「大いに不満だ」の回答はなかった。

「やや不満だ」1名の回答理由は、「発表のため、テーマを軸に対話したが、テーマ以外にも対話できる時間が欲しかった」であった。



<理由>

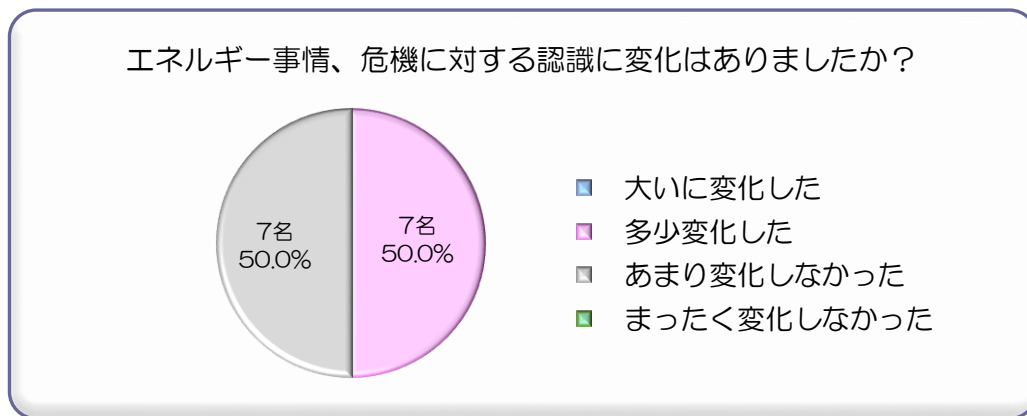
- 他者の意見を聞き、自分の考えとの比較が出来たから。
 - ・ 福島の事故と風評被害、日本の規制基準の難しさを知れたから。
 - ・ 深い内容まで知ることができた。
 - ・ 事前の質問について、深く回答していただき満足した。
 - ・ ニュースを見て「こうした方が良いのではないか？」と思っていたことが、何故出来ないのか、また、今直面している問題が何なのかを理解出来たため。
 - ・ 知識ある人の話を聞くだけでなく、それに対し意見を出して納得し、自分の知識として得る事が出来て、とても良い経験になった。
 - ・ 自分の研究分野から、あまり詳しく知らない分野まで、幅広く触れられたから。
 - ・ 普段、聞けないような詳しい話が聞けたから。
 - ・ 非常に話しやすい雰囲気だった。
 - ・ 滅多にない機会だったので。
 - ・ 原子力に従事してきた方から見た福島の現状について聞くことができたから。一般市民、国民とシニアの方たちの原子力や放射線に対する認識の違いを強く感じた。
- 普段の講義等では聞けない原子力事業者の本音が聞けたのが良かった。しかし、もう少し学生側の意見を聞いてほしいとも思った。
 - ・ 発表のため、テーマを軸に対話したが、テーマ以外にも対話できる時間が欲しかった。

(3) エネルギー事情、危機に対する認識に変化はありましたか？その理由は？

大いに变化した	0名 (0.0%)
多少变化した	7名 (50.0%)
あまり变化しなかった	7名 (50.0%)
まったく变化しなかった	0名 (0.0%)

「多少变化した」と「あまり变化しなかった」が、それぞれ半数の回答であった。

「多少变化した」の回答理由は、“原子力の必要性をもっと深く理解するようになったから”、“現状、ほとんどの原発を停止させた状況で、ある程度の生活は問題なく送っていたため、あまり必要ないかと思ったが、やはり必要だと感じた”等、「あまり变化しなかった」の回答理由は、“以前からの認識とあまり変わらなかった”、“元々、自分が考えていたような意識が補強されたような物であった”等であった。



<理由>

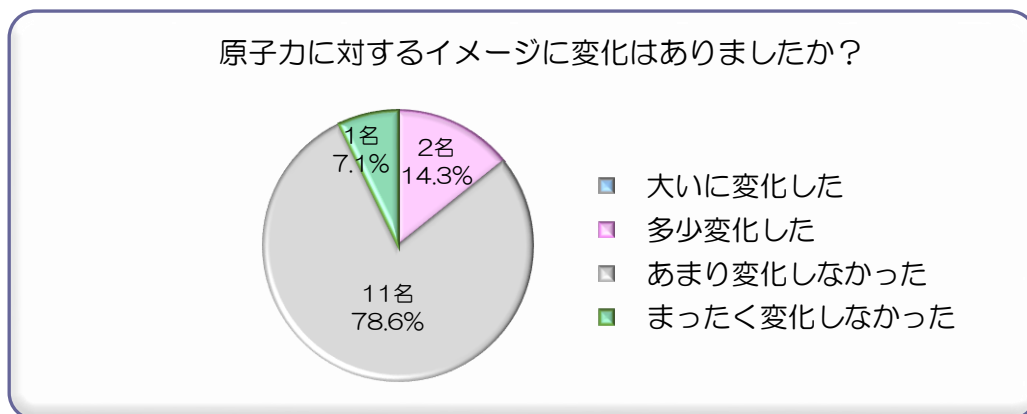
- 原子力発電の重要性をより感じたから。
 - 対話会の中で、我々学生もある意味では立派な専門家であるということと言われたことが印象に残り、当事者意識を持った原子力問題への取り組みが必要であると感じた。
 - 原子力の必要性をもっと深く理解するようになったから。
 - 現状、ほとんどの原発を停止させた状況で、ある程度の生活は問題なく送っていたため、あまり必要ないかと思ったが、やはり必要だと感じた。
 - 以前からの認識とあまり変わらなかった。
 - 基本的な考え方は変化しなかったが、原子力の必要性を、より一層感じる事が出来た。
 - 元々、自分が考えていたような意識が補強されたような物であった。
 - 原発再稼働にまつわる実情について、より深く理解できた。
 - 講義等で聞いたり調べたりしたことと同じような認識だったから。
 - より詳細な知識を得ることが出来た。
 - 安全保障上の問題や環境、資源の枯渇といったことに関しては、以前からよく聞いたことがあったから。
- 技術的な問題よりも、人材育成や地域住民の理解が課題であるという認識は変わらなかったため。

(4) 原子力に対するイメージに変化はありましたか？その理由は？

大いに变化した	0名 (0.0%)
多少变化した	2名 (14.3%)
あまり变化しなかった	11名 (78.6%)
まったく变化しなかった	1名 (7.1%)

「あまり変化しなかった」との回答が約 8 割でもっとも多く、回答理由は、“原子力の必要性等は、これまでも学んで来たため、特に変化はなかった”、“講義等で聞いたり調べたりしたことと同じような認識だったから”等である。

「まったく変化しなかった」との回答（1名）の理由は、“自分の原子力に対するイメージが間違っていないと再確認出来たので”であった。



<理由>

- 原子力の必要性等は、これまでも学んで来たため、特に変化はなかった。
- ・ シニアからの新しい情報をたくさん習得・吸収出来たから。
- ・ 日本に原子力は必須と思ってはいなかったが、やはり原発はあった方が良かった。
- ・ 原子力産業の未来に明るさを感じた。
- ・ 対話の内容が自分の原子力に対するイメージと一致したのだったから。
- ・ 原子力発電が今後も必要という認識は変わらなかったため。
- ・ やはり知識が無いのと有るのとでは、話の受け取り方も変わると思うが、事前に学んでいる故に、しっかりと話を受け取る事が出来たと思われるので。
- ・ 原発の必要性を改めて実感した。
- ・ 講義等で聞いたり調べたりしたことと同じような認識だったから。
- ・ 元々、持っていた知識を再確認出来た。
- ・ 自分の原子力に対するイメージが間違っていないと再確認出来たので。
- ・ 私自身のイメージはそれほど変わらなかったが、イメージを変えるには原子力にかかわりのある私たちの役割が重要であると感じた。

(5) 今回の対話会で得られたことは何ですか？

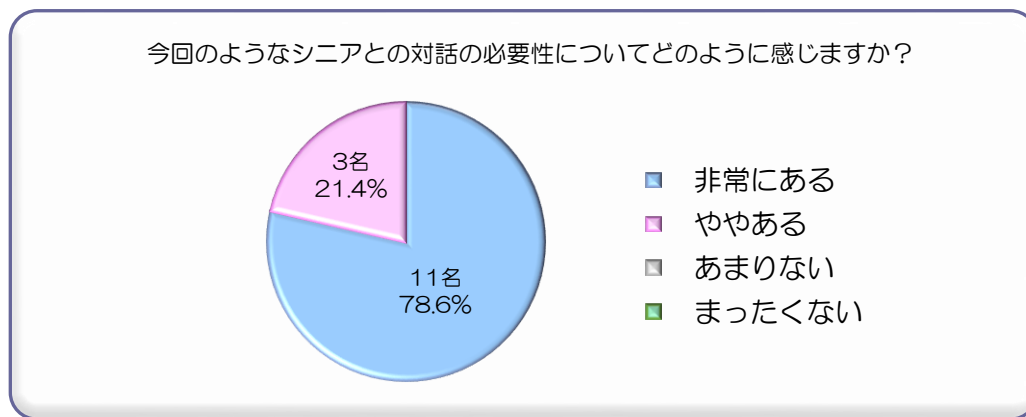
<理由>

- ・ 企業に勤めていた方の意見。
 - ・ 当事者意識を持って原子力問題に関わっていく必要性を感じたこと。
 - ・ 再稼働の現状、新規制基準、安全対策、事業者の取り組んだこと、日本のエネルギーの仕組み。
 - ・ 原子力や放射線等の知識がない人達に理解してもらうことは、そう簡単ではなく根気よく継続的に活動を行って行くことが必要であること。
 - ・ 福島の実状や、今後の課題を確認できた。
 - ・ 貴重な経験（普段、得ることのできない）。
 - ・ 新規制基準を受けて再稼働をどう進めて行くか、その課題を明確にすることが出来た。
 - ・ 様々な立場を経験した事のある先人の方の知見を学ぶという貴重な経験が得られた。
 - ・ 原子力産業の最新の状況や、エネルギー分野全体への、より深い理解。
 - ・ 普段、聞けない事や原子力の必要性の再認識。
 - ・ 改めて原子力を学んで良かったと思えた。
 - ・ 原子力に実際に携わってきた方たちのお話を聞くことで、工学的視点や判断の重要性を感じた。原子力のことを一般の人たちにどう伝えていくかがこれからのポイント。

(6) 今回のようなシニアとの対話の必要性についてどのように感じますか？その理由は？

非常にある	11名 (78.6%)
ややある	3名 (21.4%)
あまりない	0名 (0.0%)
まったくない	0名 (0.0%)

「非常にある」との回答が約8割、「ややある」との回答が約2割であった。
「あまりない」、「全くない」の回答はなかった。



<理由>

- 一つの年代だけでなく、これからの世代でも同じような活動をして、様々な意見を持ってほしいから。
 - 一言で原子力と言っても、様々な形で関わって来られた方々から、一度に話を聞ける機会は、大学ではほとんどないため。
 - 自分の研究分野や、将来の仕事に役に立つから。
 - 一つの話から派生して、色々な話が聞けるから。
 - より知識を持つ方との対話は、学生にとって大きなメリットがある。
 - 対話を通して、問題について深く考えることができる。
 - 原子力の稼働に不可欠である国民の理解を得るという点で、専門知識のある人との対話の機会は重要であると考えているから。
 - ニュースや報告書等では得られない事情や、それを踏まえた課題の解決法について知る貴重な場であるため。
 - やはり意見を出し合って、より高めあっていく機会というのは、あって良いものだと感じたので。
 - 様々な分野の専門家と議論を交えることで、新たな視野が得られるから。
 - 普段できない体験というだけでも意味があると思えるから。
 - 実際に原子力関連の人と話す機会はあまりないので。
 - 将来かかわる可能性のある仕事を行ってきた方々と話せることは、キャリアのイメージや現在の勉強のモチベーションになると思うから。
- 必要性はあるが、もっと人が多い方が活発な対話になるのではと思う。

(7) 本企画を通して全体の感想・意見などがあれば自由に書いてください。

- • 貴重な機会で大変勉強になった。このような対話会を適宜開催するべきだと思う。
- 複数の専門家と意見交換をする機会がめったにないため、今後もぜひ開催していただきたい。
- 原子力について考える貴重な時間を過ごすことができ、よかったと思う。もっと学生が多く参加すればよいのと思った。せっかくのよい機会なのにもったいない。

- • 自己紹介は簡単に終わってしまったが、これまでの経歴等もう少し詳しく教えてくだされば、学生からの質問も、より有意義になると思う。
- グループ討論で、他のテーマがどんな話をしていたのか詳細に知りたかった。